

令和3年度  
成田市中学生折り鶴平和使節団派遣事業  
広島訪問報告書



成 田 市

成田市平和啓発推進協議会

<< 目 次 >>

事業概要	1
活動記録	3
広島派遣	6
派遣後の活動	
報告会	14
令和3年広島平和記念式典における平和宣言	18
平和都市宣言（世界連邦平和都市宣言、非核平和都市宣言）	20
平和記念碑	21



## ○事業概要

### 【目的】

市では、昭和 33 年に「世界連邦平和都市」を宣言するとともに、戦後 50 年目を迎えた平成 7 年には、「非核平和都市」を宣言するなど、平和啓発活動を進めている。戦後 70 年以上が経過し、戦争を体験した方が年々少なくなり、その貴重な体験を風化させることなく、次世代に引き継ぎ、平和の大切さを伝えていくかが課題となっていることから、市内中学生が被爆地を訪問し、直接、戦争の恐ろしさや平和の尊さなどを学び、その感想や成果を多くの市民に伝えることで平和啓発を促進させるものである。

### 【派遣先】

原子爆弾の被爆地であり、原爆資料館のある長崎市・広島市のうち、本年度は被爆建造物の視察や平和学習から平和意識の高揚を図る「ヒロシマ青少年平和の集い」が開催される広島市に派遣するものとする。

### 【日程】

令和 3 年 8 月 1 日（日）～8 月 3 日（火）

### 【派遣使節団の編成】

- (1) 団員…市内の公私立中学校（11 校）から 1 名ずつ推薦された 11 名とする。
- (2) 随行人員…市教育委員会教育指導課職員 1 名、平和啓発推進協議会員 1 名、市文化国際課職員 1 名の合計 3 名とする。

### 【派遣者の責務】

派遣される中学生は、派遣に関連する行事をはじめ、事前・事後研修会に出席するとともに、派遣先においては被爆者からの体験講話を聞き、被爆関係資料館等の見学、平和記念式典への参加などを通じて、戦争の恐ろしさや平和の尊さなどを学び、派遣後は感想文等を市に提出しなければならない。

また、派遣の成果を学校内や市の行事等で発表することにより、多くの市民に平和の尊さを啓発するものとする。

【実施経過】令和3年

6月11日（金）	各中学校へ団員の推薦依頼
7月11日（日）	結団式・第1回事前研修
7月22日（木・祝）	第2回事前研修
7月27日（火）	出発式、第3回事前研修
8月1日（日）～3日（火）	広島市を訪問
8月20日（金）	事後研修
8月～11月	各学校での報告会

【派遣団】

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で市内の中学校全校を派遣することは出来ませんでした。中学生10名を広島に派遣しました。

○ 中学生派遣団

学 校 名	学 年	氏 名	備 考
成田中学校	2年	鈴木 杏慈	副団長
遠山中学校	2年	平野 咲幸	
久住中学校	2年	太野 沙耶	
西中学校	2年	大柄 捺希	副団長
中台中学校	2年	宮崎 颯良	
吾妻中学校	2年	青木 琉希弥	
玉造中学校	3年	加藤 ひなた	団長
公津の杜中学校	2年	野口 千晶	
大栄みらい学園	8年	八木 結月	副団長
成田高等学校附属中学校	2年	平山 開清	

○ 引率者

成田市教育委員会教育指導課	佐藤 悦子
成田市文化国際課	高仲 奈穂
成田市平和啓発推進協議会	山田 真澄

## ○活動内容

### 【成田市中学生折り鶴平和使節団結団式】

7月11日（日）、成田市中学生折り鶴平和使節団結団式を実施しました。



### 【事前研修】

広島への派遣に先立ち、広島・原爆についての学習や被爆体験者のお話を通して、知識を深め、広島訪問に向けて準備しました。

第1回 7月11日（日） 事業の概要、原爆を考える、被爆体験講話（木村美子さん）

第2回 7月22日（木） 沖縄戦を考える、見学先調べ

第3回 7月27日（火） 出発式リハーサル、見学先発表、千羽鶴の標語作り



### 【千羽鶴収束作業】

平和への願いを込め、市内11中学校の全校生徒の手で折られた鶴がボランティアの方々によって千羽鶴に収束されました。成田市平和啓発推進協議会から寄せられた折り鶴を含めた17,500羽を被爆地に届けました。この12年間で被爆地に献納した折り鶴は1,454,500羽になりました。



【折り鶴平和使節団・千羽鶴出発式】7月27日（火）庁議室

市民の方や市内全中学校の生徒たちが平和への祈りを込めて折った鶴を被爆地である広島と長崎に送りました。また、団員が、成田市長、成田市議会議長などに向けて、広島で学びたいことや体験したい事などの抱負を述べました。



＜広島訪問に向けた抱負＞

 <p>全力で感じる・考える</p>	 <p>戦争、原爆について知り、 平和の大切さを学びたい</p>	 <p>身近な人から平和の大切さを伝えていく</p>
 <p>平和とは何か改めて考え、人の命の大切さをより深く学びたい。</p>	 <p>平和について考えるきっかけになりたい</p>	 <p>核兵器戦争の悲惨さや平和であることの大切さをしっかりと学んでくる</p>

戦時下での人々の思いを身近な人に伝えられるようにする。



学びたいこと

- ・日本が唯一の被爆国ということを知った上で、戦争などの歴史を知り、今の平和というものについてあらゆる面から考えられるようにする。
- ・その考えたことを、いろいろな人に伝えて、今の平和を未来の平和につなげる。



広島へ行き、戦争の恐ろしさや悲惨さを直に見て耳で聞き他人事ではなく自分事として捉える。  
そして成田に戻って76年前にあった信じがたい現実を学校のみんなや地域の方々に伝えていきたい。



戦争の恐ろしさ・平和の尊さを身の周りの多くの方々に伝えられるように学びに行きたい。



## 【広島派遣日程概要】

8月1日（日）	JR 成田駅 集合 広島駅 着 平和学習講座聴講 平和記念資料館見学 夕食 ホテル着、ミーティング
8月2日（月）	ホテル発 原爆の子の像へ千羽鶴を献納 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 被爆体験講話聴講 袋町小学校平和資料館見学 原爆ドーム、爆心地（旧島病院）見学 昼食 ボランティアガイドの案内による平和記念公園見学 本川小学校平和資料館見学 夕食 ホテル着、ミーティング
8月3日（火）	ホテル発 大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）見学 広島駅 発 JR 成田着 解散



## 8月1日(日)

6:15

### JR成田駅集合

駅にて出発の挨拶を終えた後、電車で広島駅に向け出発。



6:45~

### JR成田駅~品川駅~広島駅

12:23



14:30~

### 平和記念資料館 平和学習講座聴講

15:30



資料館の職員の方から、当時の広島や原子爆弾、戦後の非核への取り組みなどについて講座を受けました。私はこの講座でアメリカの原爆実験の動画を初めて見て、原子爆弾の威力に驚きました。さらに、戦後の体験者や遺族の方の非核に向けた努力を学びました。(加藤ひなた)

15:45~

### 平和記念資料館見学

17:40





平和記念資料館は、原爆が落とされた広島で何が起こったのかを示すために広島平和記念公園内にあります。資料館内には原爆が落とされて亡くなった方の私物やそれに関するエピソードがありました。それを見て、一人一人の命の重さを改めて知ることができました。(大柄捺希)

17:55~

18:40

#### 夕食

19:30

#### ホテル帰着

バスでホテルに戻り、今日の反省と明日の折り鶴献納に向け、準備を行いました。

## 8月2日(月)

8:15

### 朝食後、平和記念公園へ移動



原爆ドームは、平和記念公園内にあります。3階建ての大きな建物で世界文化遺産となっています。僕は、この原爆ドームから戦争の悲惨さと原爆というものの恐ろしさを感じました。(青木琉希弥)

8:40

### 原爆の子の像の下で、成田市の中学校から集まった千羽鶴を献納



原爆の子の像の後ろにはたくさんの折り鶴が飾られていました。それは広島県や他の県から送られてきたものでした。中学生が作った物もあれば、小学生や高齢者の方が作った物もたくさんあり、それほど広島は原爆は色々な人々が知っていて、原爆に対する思いは一緒なんだなと思いました。私は原爆で大人だけではなく、子どもまでもが死んでしまったことをあらためて実感し、その人たちの分まで生きようと思いました。そして、二度と戦争は起こしてはいけなと感じました。(平野咲幸)



8:50

### 国立原爆死没者追悼平和祈念館見学



被爆をして亡くなられた方、約10万人以上の写真がたくさんあって、被爆者数の多さをあらためて実感しました。(太野沙耶)

9 : 20～

10 : 45

### 被爆体験講話聴講

被爆体験証言者・梶本淑子さん：高等女学校3年生であった14歳の時、爆心地から2.3km離れた動員先の工場で、飛行機のプロペラ部品を作る作業中に被爆。



僕たちは14歳で被爆された梶本淑子さんの被爆体験講話を聞きました。梶本さんは「こんな思いはもう二度と他の誰にもさせてはいけない」と話し、この思いを僕たちは絶対に裏切ってはいけないと思いました。(鈴木杏慈)

10 : 50

### 爆心地（旧島病院）



11 : 00～

11 : 40

### 袋町小学校平和資料館見学



袋町小学校で当時の広島や小学校の様子、伝言板などの貴重な被爆資料が展示されています。当時の被爆者やその遺族の方々は何を考えたのかなど、とても考えさせられる資料がたくさんありました。(宮崎颯良)

11 : 50～

12 : 30

## 昼食

14 : 00～

15 : 40

## 2グループに分かれ、ボランティアガイドによる平和記念公園を見学



平和記念公園には原爆死没者を弔う多くの慰霊碑や噴水が設置されていました。そこで印象的だった物は原爆死没者慰霊碑です。「二度と同じ過ちは繰返さない」という広島を祈る気持ちが刻まれていました。この慰霊碑を見ることで、原爆で亡くなった方や失った物を再確認することができました。(八木結月)

15 : 45～

17 : 00

## 本川小学校平和資料館見学



本川小学校は爆心地からの距離が 350m の場所にあり、原爆投下の当日は児童約 400 人と校長先生ほか 10 人の先生がいましたが、助かったのは児童 1 人、先生 1 人のみでした。現在は被爆した一部の校舎が保存され、写真パネルや当時の水が入っているビンなどを展示しています。私は本川小学校を見学して、勉強をしに来た子供たちさえも原爆はのがさず苦しませてしまうので、それだけ原爆は恐ろしく、戦争は悲惨だということに改めて気づかされました。(野口千晶)

17 : 00～

17 : 40

平和記念公園レストハウスの見学



18 : 00～

19 : 00

夕食

19 : 30

路面電車でホテルへ



ホテル帰着

路面電車でホテルに戻り、今日の反省と明日の最終日に向けて確認を行いました。

## 8月3日（火）

7:10

ホテル出発

9:00~

大和ミュージアム見学

10:30



大和ミュージアムでは、沖縄特攻の時に沈没した戦艦「大和」の10分の1の大きさの模型が展示されていました。10分の1の大きさでも高さがビル3階分、長さが一軒家2つ分もあり、とても迫力がありました。その他にも数多くの展示物があり、その中でも特攻兵の遺書や肉声が特に印象に残りました。（平山開清）

12:36~

広島駅～品川駅～JR 成田駅

17:55

18:05

JR 成田駅到着・解散

## 【事後研修】

事後研修では、実際に広島を訪問し、各団員が「見て、触れて、感じた」ことを整理し、平和の尊さを伝える「広島訪問報告会」に向けての準備に取り組みました。

8月20日（金） 報告会準備、アンケート

## ○広島訪問報告


【広島訪問報告会】8月20日（金）庁議室

報告会では、広島での3日間に「見て、触れて、感じた」ことと、その体験を今後どのように生かしていきたいかについて発表しました。最後に、教育長から講評をいただきました。





<広島で感じた「自分の思い」>

		
<p><b>過去を知る</b> 今、僕たちの同年代の人はほとんど戦争・原爆についてよく知らないと思います。なので、まずは不幸を知って、平和について考えてほしいと思いました。</p>	<p>色々な事を見て聞いて感じてきたので、次はそれを自分たちが伝えていく、発信していく立場になって、1人でも多くの人に戦争の悲惨さ、そして平和がどれだけ幸せなものなのかをしっかりと伝えていく。</p>	<p><b>平和は行動しなければ守れない</b> 平和にするために行動することが平和への第一歩だと思いました。</p>
		
<p><b>それでも生きてゆく</b> 広島を訪問して、たくさんある被爆後の写真の中に笑っている写真がありました。被爆という絶望の中で、それでも笑って生きていける人の心の強さに感動しました。絶望というのは今のコロナにも似ていて、自分たちは強く生きていかなければならないと強く思いました。</p>	<p>一人一人が「平和にする」や「核兵器を無くす」と考え、行動することが重要だと思いました。</p>	<p>学んできた「平和」というものと今の世界の違いを知った上でいろいろな人に伝えていき、理想とする平和に近づいていくために、少しでも協力できるようにしていく。</p>



### 「個人」がなくなるこわさ

私が広島で強く感じたのは「個人」がなくなるこわさです。8月6日、8時15分までそれぞれの人が営んでいた生活があり、それぞれに家族がいて、大切に思う人がいたはずですが、原爆が落ちたら、みんな同じように真っ赤に焼かれ、男女の区別がつかず、家族でさえ見分けがつかなくなってしまったと聞きました。今までその人が生きてきた証まで、全て焼き尽くしてしまうのが原爆なんだと知りました。死没者約14万人という数字で簡単にまとめられてしまうことは、とても悔しいし、二度とこんなことが起きないようにしようと思います。



私はこれから平和な未来を作るために、広島県を実際に訪問して、改めて知った原子爆弾の恐ろしさ、被爆された方々の思い、平和の尊さを身のまわりの人へ伝えていきたい。



**担い手となった私達が戦争や原爆の事を伝えていき、いつまでもその歴史を忘れず、平和な世界を創っていきたい。**

広島へ訪問して、私と少ししか年も変わらない同年代の人が夢を叶えることができずに亡くなっていったことを知りました。担い手となった私たちが、戦争や原爆での悲惨な記憶を身の周りの人に伝えていき、いつまでもその歴史を忘れず、二度と繰り返さず、平和で安全な世界を創っていきたい。



この研修で得た経験をもう一度しっかり整理し、積極的に友だちや地域の方々に伝えて、風化させないでいきたい。

## 【学校報告会】

派遣団員となった生徒たちは、それぞれの中学校において広島派遣で学んだことを自分の言葉で先生や他の生徒たちへ報告しました。

成田中学校	11月15日（月）
遠山中学校	10月6日（水）
久住中学校	10月21日（木）
西中学校	10月25日（月）
中台中学校	11月15日（月）
吾妻中学校	9月1日（水）
玉造中学校	10月25日（月）
公津の杜中学校	9月28日（火）
大栄みらい学園	10月22日（金）
成田高等学校付属中学校	8月24日（火）



## 平 和 宣 言

76年前の今日、我が故郷は、一発の原子爆弾によって一瞬で焦土と化し、罪のない多くの人々に惨(むご)たらしい死をもたらしただけでなく、辛うじて生き延びた人々も、放射線障害や健康不安、さらには生活苦など、その生涯に渡って心身に深い傷を残しました。被爆後に女の子を生んだ被爆者は、「原爆の恐ろしさが分かってくると、その影響を思い、我が身よりも子どもへの思いがいっぱいで、悩み、心の苦しみにへと変わっていく。娘の将来のことを考えると、一層苦しみが増し、夜も眠れない日が続いた。」と語ります。

「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」、これは思い出したくもない辛く悲惨な体験をした被爆者が、放射線を浴びた自身の身体(からだ)の今後や子どもの将来のことを考えざるを得ず、不安や葛藤、苦悩から逃れられなくなった挙句に発した願いの言葉です。被爆者は、自らの体験を語り、核兵器の恐ろしさや非人道性を伝えるとともに、他人を思いやる気持ちを持って、平和への願いを発信してきました。こうした被爆者の願いや行動が、75年という歳月を経て、ついに国際社会を動かし、今年1月22日、核兵器禁止条約の発効という形で結実しました。これからは、各国為政者がこの条約を支持し、それに基づき、核の脅威のない持続可能な社会の実現を目指すべきではないでしょうか。

今、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、人類への脅威となっており、世界各国は、それを早期に終息させる方向で一致し、対策を講じています。その世界各国が、戦争に勝利するために開発され、人類に凄惨(せいさん)な結末をもたらす脅威となってしまった核兵器を、一致協力して廃絶できないはずはありません。持続可能な社会の実現のためには、人々を無差別に殺害する核兵器との共存はあり得ず、完全なる撤廃に向けて人類の英知を結集する必要があります。

核兵器廃絶の道のりは決して平坦ではありませんが、被爆者の願いを引き継いだ若者が行動し始めていることは未来に向けた希望の光です。あの日、地獄を見たと語る被爆者は、「たとえ小さなことからでも、一人一人が平和のためにできることを行い、かけがえのない平和を守り続けてもらいたい。」と、未来を担う若者に願いを託します。これからの若い人をお願いしたいことは、身の回りの大切な人が豊かで健やかな人生を送るためには、核兵器はあってはならないという信念を持ち、それをしっかりと発信し続けることです。

若い人を中心とするこうした行動は、必ずや各国の為政者に核抑止政策の転換を決意させるための原動力になることを忘れてはいけません。被爆から3年後の広

島を訪れ、復興を目指す市民を勇気づけたヘレン・ケラーさんは、「一人でできることは多くないが、皆一緒にやれば多くのことを成し遂げられる。」という言葉で、個々の力の結集が、世界を動かす原動力となり得ることを示しています。為政者を選ぶ側の市民社会に平和を享受するための共通の価値観が生まれ、人間の暴力性を象徴する核兵器はいらないという声が市民社会の総意となれば、核のない世界に向けての歩みは確実なものになっていきます。被爆地広島は、引き続き、被爆の実相を「守り」、国境を越えて「広め」、次世代に「伝える」ための活動を不断に行い、世界の165か国・地域の8,000を超える平和首長会議の加盟都市と共に、世界中で平和への思いを共有するための文化、「平和文化」を振興し、為政者の政策転換を促す環境づくりを進めていきます。

核軍縮議論の停滞により、核兵器を巡る世界情勢が混迷の様相を呈する中で、各国の為政者に強く求めたいことがあります。それは、他国を脅すのではなく思いやり、長期的な友好関係を作り上げることが、自国の利益につながるという人類の経験を理解し、核により相手を威嚇し、自分を守る発想から、対話を通じた信頼関係をもとに安全を保障し合う発想へと転換するということです。そのためにも、被爆地を訪れ、被爆の実相を深く理解していただいた上で、核兵器不拡散条約に義務づけられた核軍縮を誠実に履行するとともに、核兵器禁止条約を有効に機能させるための議論に加わっていただきたい。

日本政府には、被爆者の思いを誠実に受け止めて、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となるとともに、これから開催される第1回締約国会議に参加し、各国の信頼回復と核兵器に頼らない安全保障への道筋を描ける環境を生み出すなど、核保有国と非核保有国の橋渡し役をしっかりと果たしていただきたい。また、平均年齢が84歳近くとなった被爆者を始め、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、黒い雨体験者を早急に救済するとともに、被爆者支援策の更なる充実を強く求めます。

本日、被爆76周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と手を取り合い、共に力を尽くすことを誓います。

令和3年（2021年）8月6日

広島市長 松井 一寛

## ○平和都市宣言

### 世界連邦平和都市宣言

(昭和 33 年 10 月 31 日宣言)

成田市は、宗教観光都市として、世界連邦建設の趣旨に賛同し、自ら永遠の平和都市となることを決意し、全世界の恒久平和確立と人類の福祉増進に努力せんとするものである。

右宣言する。

### 非核平和都市宣言

(平成 7 年 2 月 21 日宣言)

世界の恒久平和は、全世界の人々の共通の願いである。

我が国は世界で唯一の核被爆国として、広島・長崎に原爆が投下されて本年で 50 年目を迎える。

我々は、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再びこの地球上にあの惨禍を繰り返すことのないよう強く望むものである。

このため、平和を希求する我々成田市民は、我が国の国是である非核三原則が完全実施されることを願い、全世界の人々と共に、核兵器の廃絶、恒久平和確立のためここに「非核平和都市」を宣言する。



「平和と繁栄の像」

世界連邦平和都市宣言の記念として昭和 33 年の旧庁舎完成時に寄贈された。



「成田市平和のためのメンヒル」

平和を愛する成田市民の心の象徴として平成元年に建立された。

令和3年度

成田市中学生折り鶴平和使節団派遣事業

広島訪問報告書

令和3年11月 発行

発 行 成田市

〒286-8585

成田市花崎町760番地

電 話 0476-22-1111 (大代表)

編 集 成田市シティプロモーション部文化国際課

登録番号 成文 21-031